

感性が発展すると
夢になります
夢は自分そのもの

自分に夢を持つと
相手の気持ちもわかり
心がつながります

母親と子供の「超憩いの場」

母親と子供がお互いに自分の心を見せ合う、親子交流作文教室
子育てに悩む母親サポート事業

作文は自分の
気持ちを自由に書けて
公平に読んでもらえる

作文のコツを
覚えるとスラスラ書け、
楽しいものです

背景

- ◆子育ての悩み・・・今ますます深刻になっています！
- ◆相談する相手・・・おばあさん？親戚？隣近所？学校の先生？・・・いない！
- ◆何を信頼する・・・ネット？テレビ？本？・・・信じられない！
- 子育てに悩む母親にとって・・・誰にも何処にも頼れるものが無い！！！！

母親にとって

- ◆共働き社会の浸透 >> 子供と接する時間の減少

子どもたちにとって

- ◆情報社会から有り余る情報の氾濫 >> 母からの知恵の相対的減少
- ◆競争社会では塾、スポーツ優先 >> 母と子の間の心の交流の減少

どうすれば良いの？

◆子供と接する時間の減少

- ・ 現代社会の煩雑さが増しており、子供に接する時間を確保できない人は多い
- ・ そういう母親にとっては**短い時間でも密度の濃い接点を探すべき**だろう

◆母と子の間の絶対的情報量の減少

- ・ 子どもたちを誘惑する情報が世の中に溢れている中で母親の魅力を高め、
- ・ 氾濫する多くの情報の中にあっても**母親を魅力ある存在に高める**努力が必要

◆母と子の間の心の交流の減少

- ・ 母親の些細な言動から子供と対立が生まれることが多々ある
- ・ 子どもとの交流は母親側の意識と知識により深めることが出来る
- ・ **母親同志の交流、子育て専門家との交流**がよりよい子供と心の交流につながる

我々のやりたいこと（結論）

情報化社会や競争社会でも、夢を語り個性豊かな子育てを目指す。そのためには母親一人ひとりが子供と本心で接するための場所を提供し、悩む母親同志が交流し自己研鑽出来るようにしたい。それが地域全体の発展につながる。

「超憩いの場」プラン

1. 目的

- 子育てに悩む母親に我が子の気持を知り、自らの気持を子に伝える機会を提供する
- 子育てに悩む母親同志の情報交換による子育ての勉強の場とする
- 作文指導を通じて母親と子どもに夢と個性の大切さを自覚させる

2. 概要

- 「超憩いの場」と命名する親子超作文講座を開設する
- 6ヶ月に3回講座を開設し、1回は10:00～16:00、参加費500円/人(経費分)
- 講座の集客、進行、作文指導は作文専門家+ボランティア数名で行う
- 親と子が自分の考えが伝えられるようなテーマで作文を書く
- 作文を書く過程で母親同志、母親と他の子供、子供同志の交流が出来る仕組みを作る
- 作文を親子で読み合い、お互いの気持の交流をする
- その時の親子の感動を撮影するなどして記録にとって各家族に渡す
- 子育てをテーマにしたSNSを立ち上げ、参加者同士の交流と専門家意見が聞ける場を設ける

3. 実行メンバー

- 絵本作家園田裕子: 作文指導、夢と個性指導、子育ての悩みコンサルタント
- 緒方祥之: 広報宣伝、進行企画
- シニアボランティア、学生ボランティア
- 大福コンサルティング(建設コンサルタンツ協会): 後援

• 何故「超」がつくのか？

- 表面的な憩いの場ではなく、交流度がずっと濃い憩いなので「超」を冠にした。

• なぜ作文なのか？

- 書くコツを身に付けると
- 自分の気持を言葉よりも正確に伝えられる
- 書いた作品が実物でも心にも残る
- そして必ず読んでもらえる

• 3回のテーマ

- 初回: 自分の本心や気持を伝える
- 2回目: 他人を思う気持を考える
- 3回目: 自分の貢献したい事を伝える

• 仕組

- 子供同志、母親同志の交流: 母親グループでテーマにあった素材を検討させる→子育ての意見交換につながる
- 母親と他の子供の交流: 下書き段階で大人が子供のチェック→他人の子供がどんなことを考えているのか理解できる

4. 本プロジェクトに期待する効果

地域にとって

子育ての質を
高められる

優しく思いやりある
環境に

子供にとって

母と一緒に作業を
楽しむ

母親のすばらしさを
実感する

自分を表現する
喜びの実感

母の愛を子供に
伝える

子の本心を
引き出す

母親にとって

母と子の一体感
醸成

子育て専門家の
アドバイス

作文力、表現力の
向上

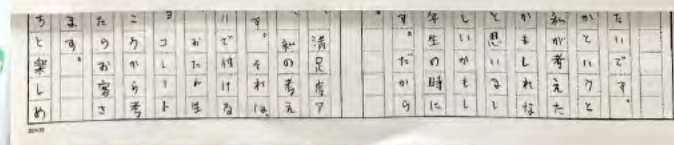


絵本作家の講師が作文のテーマを設定し作文の書き方を説明



母親は講師の指導のもとで、子供への母親の気持を作文に託します

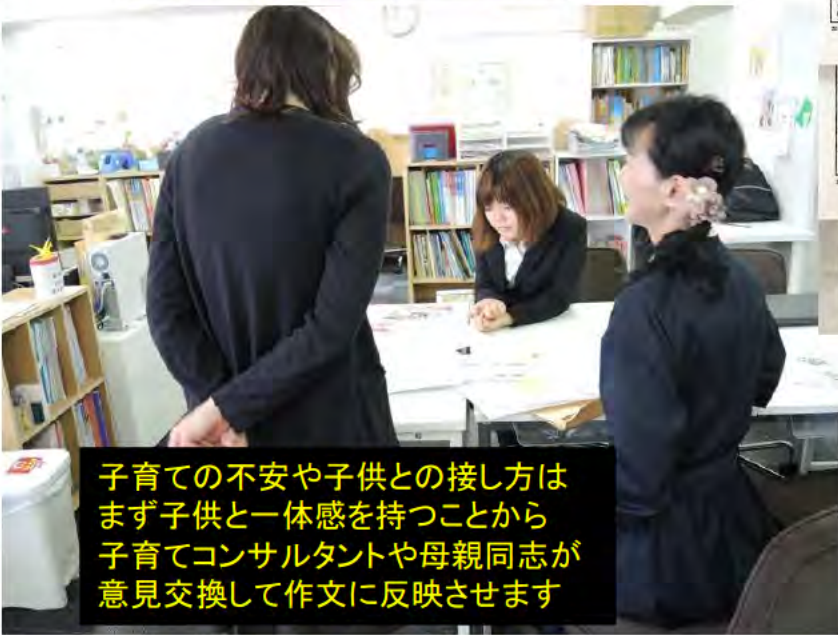
超憩いの場イメージ



子供の書いた作文は親子で読み合い、お互いの気持の交流に繋がります



子供たち同志も話し合いながら楽しく夢いっぱいの作文を仕上げます



子育ての不安や子供との接し方はまず子供と一体感を持つことから子育てコンサルタントや母親同志が意見交換して作文に反映させます

そして、参加者全体で親子の交流を楽しみます

実は、昨年も同じ主旨の提案をし、試行を重ね実行を模索してきました。しかし、人員も予算も限られる中で原案のままでの実行は無理でした。そこで、出来る事から始めることにしました。今回は試行・実行中のプランとして提出しました。

